

授業科目	健康免疫科学特論 Health Immunology			担当教員	※吉村 亮二		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年／後期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
本特論では、免疫の基礎メカニズム、解剖学的免疫機構、炎症の原因と意味、抗菌薬、アレルギー、食物アレルギー、腸内細菌、腸管免疫について学修し、免疫・生体機構・食品・栄養の関連性に関する基礎的知識を修得することをねらいとする。							
	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	免疫学について関心を持ち、理解し、積極的に取り組むことができる。				・グループ討議		20%
					・課題発表		10%
思考・判断	免疫機構とヒトの健康維持・増進の関連性を考えることができる。				・論文抄読		25%
技能・表現	与えられた課題の内容を簡潔にまとめてプレゼンテーションができる。				・課題発表		20%
知識・理解	免疫機構のメカニズムや生体防御機構の基礎知識を修得し、説明することができる。				・論文抄読		25%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
・論文抄読(50%)、課題発表(30%)、グループ討議（20%）の割合で評価する。 ・論文抄読は、免疫に関わる論文の解読能力を評価する。 ・グループ討議は、発言、討議内容を評価する。 ・課題発表は、課題に合った適切な発表内容であったかを評価する。							
授 業 の 概 要							
課題を与え、課題発表を行い、その内容について討議を行う。また、参考文献、参考資料（英語論文含む）について、適宜討議をおこないながら、自分で考え、解決する能力を養えるように行う。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：必要に応じて資料を指定・配布する。 参考書：感染と生体防御（建帛社）、感染症・アレルギーと生体防御（同文書院）、戸田新細菌学（医学書院）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 免疫学の基礎的知識を修得して、人の健康状態の維持に関与する免疫機構の役割を理解できるように、 本特論の講義に臨むことを期待する。 2. 6 回欠席で再履修とする。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	免疫の基礎 ①	免疫の概念と免疫系について	専門書で免疫の概念と免疫系について予習・復習する。
2	免疫の基礎 ②	自然免疫について	専門書で自然免疫について予習・復習する。
3	免疫の基礎 ③	獲得免疫について	専門書で獲得免疫について予習・復習する。
4	免疫の基礎 ④	体液性免疫について	専門書で体液性免疫について予習・復習する。
5	免疫の基礎 ⑤	細胞性免疫について	専門書で細胞性免疫について予習・復習する。
6	解剖学的免疫機構	解剖学的免疫機構について	専門書で解剖学的免疫機構について予習・復習する。
7	炎症の原因と意味	炎症の原因と意味について	専門書で炎症について予習・復習する。
8	抗菌薬 ①	抗菌薬の種類について	専門書で抗菌薬の種類について予習・復習する。
9	抗菌薬 ②	抗菌薬の作用メカニズムについて	専門書で抗菌薬の作用メカニズムについて予習・復習する。
10	アレルギー	I～IV型アレルギーについて	専門書でアレルギーについて予習・復習する。
11	食物アレルギー ①	食物アレルギーの成因、発症機序、病態について	専門書で食物アレルギーについて予習・復習する。
12	食物アレルギー ②	アレルゲンの腸管吸収と健康・栄養について	専門書でアレルゲンの腸管吸収について予習・復習する。
13	腸内細菌	腸内細菌と健康・栄養について	専門書で腸内細菌について予習・復習する。
14	腸管免疫	腸管免疫と健康・栄養について	専門書で腸管免疫について予習・復習する。
15	総括	これまでの内容の総括	これまでの内容を専門書で確認する。

注) 講義内容は都合によって変更することがある。